

地域高規格道路松本糸魚川連絡道路意見交換会まとめ

市町村名	小谷村		
開催日時	第1回 9月 28日（金） 第2回 10月 8日（木） 第3回 11月 30日（金）（発表）		
項 目	意見・提言等		
1．道 路 行 政 全 般 に つ いて	・人口の少ない地域程、高規格道路が必要である。 ・道路網の整備が遅れると、これから市町村合併が進めば一層不安になる。 ・安全と利便性を考慮した道路を望む。		
2．地域の課題、問題点 （まちづくり、自然、生活）	・大町以北は国道148号の一本のみで、産業道路化している。雨中地区にて夜間車両の通行調査の結果、車の大型化や速度超過、騒音など危険度が高まっている。大型車は冬場ノーチェーンで来るので危険である。 ・高校や病院などに行くのに時間がかかり過ぎる。 ・事故による通行止め、除雪等で渋滞が特にひどい。5～10時間の渋滞が毎年何回かある。 ・緊急事態発生時に交通が寸断され、7.11災害では避難経路すら確保できず、148号線、大糸線が不通となり、物資の流通、観光、医療など全てが閉ざされ不安な思いをした。 ・長野道の開通など北信地方は良くなった反面、小谷村は道路整備等で遅れている。観光面に影響している。スキー客も渋滞に巻き込まれ、地域のイメージダウンとなっている。		・7.11災害時は、砂防堰堤等による治山治水工事のおかげで、幸いにして人命被害に及ぶことはなかったが、この度の田中県政の『脱ダム宣言』によりそれすらも危ぶまれる。
3．道路の必要性 （建設の是非）	・観光客は、利便性の高い方へ流れる。広域観光をふまえた道路交通網の確保が必要である。 ・自動車道インター10Km以内は工場の誘致、人口増も望めるので必要である。 ・通学や通勤等を考慮した利便性向上により急激な高齢化や人口減を回避できる。 ・高規格道路が実現し、通勤圏が広がれば広域な経済活動が出来るようになり経済的にも有効である。 ・車が重要な交通手段であるため道路整備が必要である。 ・交通渋滞の解消（特に冬季）のため必要である。 ・交通量調査により148号は交通量が多く、交通弱者のためにも現道バイパスや高規格道路の早期実現が必要である。 ・災害時に、安心して避難できる。また、救急車等の医療機関への時間短縮も必要。		
4．整備手法、ルート案	・景観等に配慮し、トンネルを主体としたルートが良い。 ・インターは最低2カ所必要。しかし、森上にできれば北小谷一カ所でも良い。 ・観光名所としてのループ橋があっても良い。 ・堆雪帯を設けて欲しい。 ・大町以北、特に白馬、小谷を先に着工して欲しい。		・雨中地区など危険度の高い場所は現道の整備が急務である。 ・車両渋滞対策として、現道148号に追い越し車線（箇所）を設けることは出来ないか。 ・雨中地区の歩道グレーチングを減らしてコンクリート蓋を増やして欲しい。 ・148号線の危険地区（雨中地区）におけるバイパス的道路を考えて欲しい。
5．今後の進め方について （住民参加、広報、情報提供、合意形成）	・現在ある期成同盟会等の充実をはかる。署名運動も平行して行い地域の声を示して運動を進める。小谷村にとって高規格道路がなぜ必要かを関係官庁に提言する。 ・高規格道路の広報をもっとして欲しい。 ・23Km調査区間をもっと延長して大町以北でも調査区間の指定を受ける運動をする。 ・問題のある所は後まわしにして、早急にルート決定を行い、必要としている小谷村から調査を開始し工事に着手して行くことを望む。 ・糸魚川市、白馬村、大町市等近隣市町村との連携を取り、地域振興計画との整合した運動が必要である。小谷村の必要最低限の要望事項を示し、官庁及び関連地区の方々に小谷村の現状を理解してもらう。 ・観光、産業、経済、医療、JR大糸線等を考慮した連絡道路のことも同時に検討する必要もある。		・現道整備を早急にしてほしい。 ・高規格道路の調査は、どのくらい進んでいるのか。検討ばかりしていて前に進まないのではないか。 ・具体的に実現するならば期間はどのくらいかかるか。 ・糸魚川市では高規格道路の計画はどの位進んでいるか。 ・昭和62年に策定された高速道の計画からもれたが、今回見送られたらどうなるのか。
6．意見交換会について	・この懇談会の結論はいつ頃出す予定か。		
	・9月14日、若者グループによる高規格道路につきアンケート調査の報告をされた。1200名を対象とし回答された方は532名で44.3%であった。内容は、高規格道路が必要と答えた方は、68.6%、不必要17.5%、分からない13.7%等の結果報告がされた。		

※ 意見の多少に関わらず、主な意見を載せています。